

# ふくろう新聞

＜発行＞ ホームの郷会  
 特別養護老人ホーム  
 淡路ふくろう委員会  
 洲本市中川原町  
 中川原28番地1  
 TEL: 0799-25-8550  
 FAX: 0799-25-8551  
 ホームページ  
<http://www.normanet.ne.jp/~hyoufuku/>

残暑お見舞い申し上げます。先月のふれあいセンター学習会にご参加いただいた皆様ありがとうございました。  
 5周年記念事業も10月に行なわれる「ふくろうふれあいまつり」が近づきました。6回目となる今年はB級グルメふくろう大会・ミニSL等楽しい企画が満載。多くの皆さまのご参加をお待ちしております。皆さまを歓迎する恒例のかかし作りもあります。

紙面の都合上、一部の紹介のみとなってしまふのが残念なぐらい活発な議論が交わされました。参加者51名と聞くと「少ない」と思われる方の中にはいらつしやると思います。ですが、当日集まられた方々の生まれ育った中川原地域に対する「熱い思い」は数字で表すことはできません。その想いを受け、地域ふれあいセンターは今後も「地域とともに」を基本理念に事業展開していきます。

## 暑さに負けず、これからの中川原を熱く語り合う

7月17日(日)、中川原町連合町内会協賛の下、中川原中学校体育館にて「中川原高齢者・障がい者地域ふれあいセンター(以下、地域ふれあいセンター)構想について」学習会を行いました。



▲にじみ出る汗を拭きながらの熱い討論が行なわれました。

当日51名の方々のご参加をいただき、ふれあいセンターに至るまでの経過報告、事業概要、先日行われた温泉ツアー参加者へのインタビュー、立命館大学石倉教授による講演、参加者によるグループ討論を行いました。

まず石倉先生より、「おたがいさま中川原」事業のアンケート結果の報告(内容は2面に一部掲載)があり、その内容を受け、5つのグループに分かれて意見を出してもらいました。「中川原のために」という熱い想いから、さまざまな提案・問題提起がされました。

### 《提案》

- ①みんなの集まれる場を作ってほしい  
みんなが集まって食事をしながら和気あいあいと過ごせる場を作ってほしい。
- ②緊急のときの送迎サービス  
定期の送迎はもちろんだが、緊急時の送迎、子どもの送迎も対応してほしい。
- ③休耕田が増えてきているので、活用について考えてほしい
- ④留守番サービス、一時預かりサービス(高齢者・子どもを問わず)を行ってほしい

### 《問題提起》

①「地域とともに」というが、地域住民もどんどん高齢になっていき、応援することができなくなる。需要と供給のバランスを今から考えておかなければならない。

- ②応援する場合、事故の問題がある。そのあたりきちんと対策を講じなければならぬ。
- ③支援する側・される側とトラブルに発展してしまうこともあるのでは？

など、実際に事業展開するにあたり、気を付けなければならぬ点・注意点等のアドバイスをいただきました。

### 温泉ツアーの感想

先月7月6日私達独居老人を五色の「ゆうゆうファイブ」の温泉に送迎して頂き、職員民生委員さんにお世話になり久しぶりの「ゆっくり安心して」入浴させて頂きありがとうございました。

私達に洲本市から入浴券を頂いているのですが、ほとんど使っていないです。タクシーでは三千元余り、とてもじゃないけど行けませんでした。半ばあきらめていた

紹介のみとなってしまふのが残念なぐらい活発な議論が交わされました。参加者51名と聞くと「少ない」と思われる方の中にはいらつしやると思います。ですが、当日集まられた方々の生まれ育った中川原地域に対する「熱い思い」は数字で表すことはできません。その想いを受け、地域ふれあいセンターは今後も「地域とともに」を基本理念に事業展開していきます。

皆様、お忙しい中、また暑い中ご参加いただき本当にありがとうございます。

《準備室・濱田》

のですが、ご協力ありがとうございました。感謝致して居ります。高齢者の方にも云って下さいとの事でしたので、声かけをしています。

最後に「住民同士の豊かなつながりで支え合う地域づくり」に運営をめざして「実行して下さい」をお願い申し上げます。  
 後藤 州永



# 「おたがいさま中川原事業(案)」に大きな期待

「おたがいさま中川原事業」は困ったときは「おたがいさま」の精神で、地域で暮らす人々が抱える日常生活のちよつとした困りごとを地域の方々が自分の得意分野を生かし、有償で支援・応援・解決していく事業です。

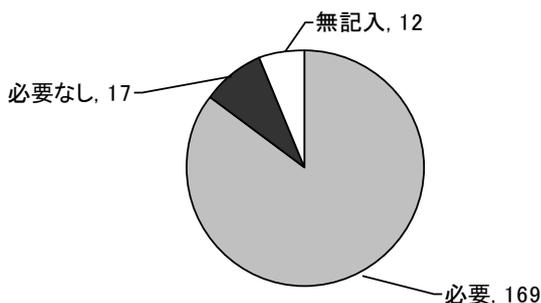
この事業を進めるにあたり6月に中川原地域にお住まいの方を対象にアンケート調査をさせていただきました。

立命館大学石倉康次先生に今回、調査結果を分析していただきました。抜粋して紹介させていただきます。

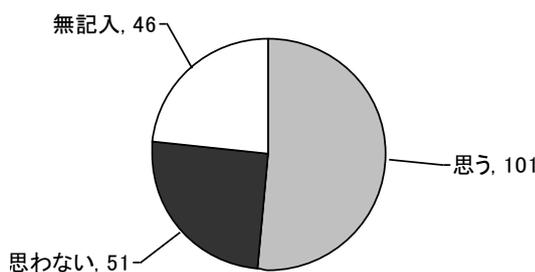
アンケート配布…500部  
アンケート回収…198部  
(7/17時点)  
アンケート回収率…40%



1. おたがいさま中川原事業は必要ですか？

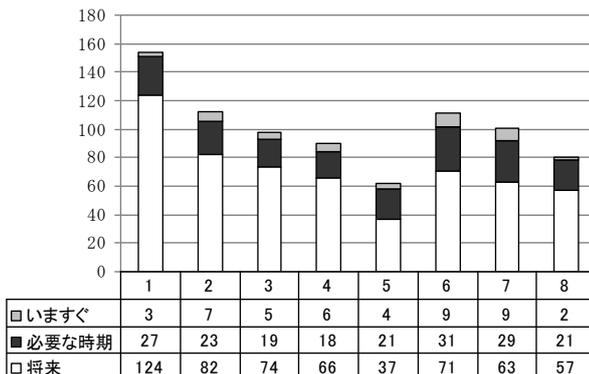


2. おたがいさま中川原事業のサービスを利用したいと思いますか？

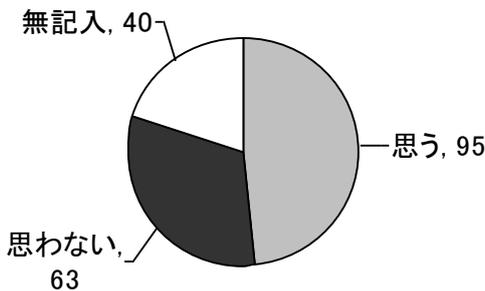


3. どのような支援があれば受けたいと思いますか？

1. 配食
2. 病院や買い物時の送迎サービス
3. いろいろな代行サービス
4. 高齢者の安否確認
5. 保育所・学校への緊急送迎
6. 草刈、家の掃除、修繕、墓の掃除など
7. 田・畑の手入れ
8. 家の電球替えなどの軽作業



4. おたがいさま中川原事業の支援者として応援したいと思いますか？



グラフからもわかるように、この事業の必要性・期待、また「地域のために何かをしたい」という皆様の想いを感じる事ができます。石倉先生は「かつてなら(家の困りごとは)家族や親族で対応できたし、近隣の相互扶助(結い)のようなものもあつたが、現代社会ではそれがなくなりつつある。しかし、この事業をきっかけに近隣住民の助け合い精神、連帯感が生まれるのではないかと?そしてそのような共同の力が組織できればそれをどんどん広げ新たな課題への挑戦もできるのではなか?」とこの事業が果たす

べき役割をお話し下さいました。8月17日から2泊3日で先生のゼミ生による中川原地域での戸別訪問調査も予定しています。今後「中川原地域のために」必要なことは何なのかをこれからも一緒に考えていきたいと思います。

## ふくろう学習会特別企画

7月17日午後5時からふくろう学習会特別企画として、国の障がい者制度改革推進会議議長代理の藤井克徳氏(視聴覚障害者・きょうされん常務理事)をお招きし、障害を持つ人が社会構成の一員として共生社会を作っていく主体になるための「しくみ」についてお話いただき、約50名が学びました。



「運動は裏切らない」と熱く語る藤井氏

# 福祉制度や資源の充実を要望

## 兵庫県議会健康福祉常任委員会2度目の視察



▲入居者の作品を見つめる議員のみなさん

くろうの郷に入居できるのはまだ一握りの人であり、今後、住みなれた地域でサービスを受できるような体制が必要との定期を行ないました。

施設見学では、ある議員は屏風の素晴らしさを目をとめられ、しかも入居者が作っていることに更に驚かれ、是非買いたいとの注文も頂きました。

今回の視察を機に、兵庫各地で聴覚障害者福祉の向上につながる取り組みが更に発展するようお願いしてみます。(総務主任…辻)

7月27日、県会議員さん等13人が視察に来られました。入居者も7人同席し、白水理事長のあいさつ後、大矢施設長より、それぞれ入居前の生活状況や入居者の施設での役割等の5周年記念誌を紹介しながら説明しました。

また施設建設に多額の自己負担の準備や借金を余儀なくされていることの制度の矛盾、現在も被災地では聴覚障害に配慮した資源が全くなく、大変困難な状況に置かれていること、兵庫県においても



▲笑みがこぼれる藤本さん

# 働く喜びを実感し作業給料日

7月19日、大矢施設長からふくろう工房で働く入居者に給料が手渡されました。給料袋を誇らしげに見せてくださる方、すぐに自販機でコーヒーを買いに行かれる方など。働く喜びを実感していた特別な日となったことと思います。

# サークル活動を通じた『人権』を守る取り組み

7月23日に洲本市文化体育館で開催された、兵庫県人権教育研究会の「障がいのある人の人権」分科会で淡路ふくろうの郷職員の加野さんと入居者の志田喜代松さん・富永ゆき子さんと共同で「サークル活動を通じた『人権』を守る取り組みと淡路ふくろうの郷の実践」と題して発表をさせていただきました。

聴覚障害者理解を地域に広めるサークルの取り組みやふくろうの郷建設運動について報告した後、加野さんよりふくろうの郷の理

念と志田さん・富永さんがふくろうに入居されてそれぞれの人生をより豊かに過ごしておられる様子を報告、参加者は熱心に聞き入っていました。(手話サークル津名 平松弘子)

# 第6回ふくろう・ふれ愛まつり

とき:2011年10月23日(日) 10:00~15:00(※小雨決行)



今年のふくろう祭りはふくろうB級グルメ大会、ミニSL、シャボン玉、あめ玉つかみ、宝探し…などなど、盛りだくさんの内容です。また、当日参加していただける模擬店、舞台出演、ボランティアさんを募集しています。みなさまのご参加、こころよりお待ちしております。

# 5周年記念誌について

看護師として人と接する時、対象となる方の様々な生活歴や様々なコミュニケーションの方法があることを具体的な場面として想像できる本だと思ひ学生に本を託しました。考え方が「こうでなければならぬ!!」ではなく「こんな方法もありかも…」と発想に転換できる看護師になって欲しいと願います。(看護主任 高田健史)

# 淡路ふくろうの郷開所5周年記念誌

頒価 2,000円(税込)

ホームページで感想文掲載中!  
「淡路ふくろうの郷」等で検索して下さい



# 地域を語る

## 第32回

### 中川原の郷に

#### 電灯がついた...

大正13年(一九二四)

大正十一年後半期に徳島水力電気株式会社と交渉して、中川原村一円の架設をなす。大正十二年二月、電燈委員囑託あり。

平野貞吉、神代文治郎、荒浜栄、畑田嘉一朗、川崎江三郎、柳庄一郎、駒勢伊与蔵、清水嘉太郎、中野篤一郎、太田富五郎、島田嘉一郎、細川源治郎、

大正十二年二月二十四日第一次委員会開催ありて、工事施設の補償金は、需要家の負担として、之に対する準備費は村の負担と決定ありたるも、徳島水力は、三重水力電気株式会社と合同の為、工事遷延する故、前記委員中より特別委員として、中野篤一郎氏川崎江三郎氏平野貞吉氏が選任されたものである。

市原村の委員は川崎江三郎、柳庄一郎、岡田佐平、中野才三郎、高田常太郎、大岡寅一、高田政平、大下重一、太田喜平、梶田伝太郎、伊和弥一郎、平野守雄、榎谷実朗、山下重三郎の諸氏であった。

総経費 金二千八百四拾九円二十五銭七厘大正十二年より十三年に亘り電燈架設工事実施ありて、これによりランプ解消ありて、文明の恩恵に浴すことが出来、村民の欣び大なるものあり。

※地方史の新研究(中川原村史より)



大正時代に初めてついた街灯

(イメージ写真)

## 孟宗竹で作った総長34mのそうめん流し



▲流れてくるそうめんと格闘する入居者のみなさん

今年で地域交流会による2回目のそうめん流し。施設の玄関前から、長さ5〜7mの竹6本で継がれてできたそうめん流し台が二本、総長34mで何とも壮大な流し台の出来上がりです。

前日からの地域交流会のみなさんの準備と見守りの中、入居者さんはゆったりと流れてくるそうめんに舌鼓されていました。職員も楽しそうにそうめんに舌鼓していました。

地域をはじめボランティアの方々の協力と支援があつて、毎年、楽しい行事が催されていることに感謝の気持ちで一杯です。

(法人事務局次長 中村)

### ふくろう喫茶とカクテルバーのお知らせ

バー開催日時: 9月15日(木)  
13:30~16:30

カクテル各種 1杯 ¥300

◆ ふくろう喫茶&バーでふくろうの郷の入所者さんと一緒に、楽しい時間を過ごしませんか。

喫茶開催日時: 9月18日(日)  
13:30~15:00

コーヒー・紅茶・ココア・

カルピスなど 1杯 ¥200より



### ふくろうかかし作りボランティア募集

今年もふくろうふれ愛まつりに来場される皆さんをお迎えるかかしを10体作ります。

かかし作りのお手伝いに来てくださる方を募集しています。

■骨組み作り... 8月20日(土)

■かかし作り... 8月28日(日)

13時30分~16時(予定)

